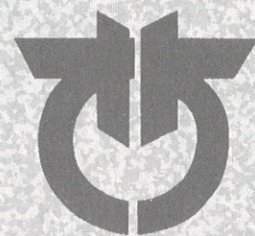


人権教育広報

ふれあい

編集・発行 桶川市人権教育推進協議会



第16号

人権標語優秀作品

【小学校の部】

ありがとう そのひとことが
あったかすいっち

● 桶川西小1年 もりやま こはる
森山 小春 ●

あいさつは 心と心の セつちやくざい

● 加納 小4年 いわさき かずひさ
岩崎 和久 ●

「だいじょうぶ？」 いわれて
こころが あたたかい

● 川田谷小1年 よしだ みなと
吉田 湊 ●

あいさつは みんなへあげる おくりもの

● 桶川東小4年 おおしま かな
大島 栞奈 ●

「ダメだよ」と 言えるゆう気 だいじだよ

● 日出谷小2年 かとう つばさ
加藤 翼 ●

その命 はかりにのせても みんな同じ

● 朝日 小6年 みか じりよしあき
三日尻佳陽 ●

差しのべた その手その声 あたたかい

● 桶川 小6年 わかばやし ゆな
若林 優菜 ●

【中学校の部】

無視してない？ クラスメイトの SOS

● 桶川 中2年 つりたに ほのか
釣谷 帆花 ●

ネットより 声や言葉で つながろう

● 桶川東中3年 かわもと
河元さくら ●

つなげよう 私とあなたと みんなの輪

● 桶川西中3年 こばやし ここね
小林 心音 ●

傍観者 いじめなくても 共犯者

● 加納 中1年 おおさわ はやと
大澤 勇斗 ●

(児童・生徒名については敬称略)



日出谷小学校 2年 しばた じゅり
柴田 樹里



地域と共につくる豊かな体験

桶川市立桶川西小学校

本校では、「差別の不合理に気づき、人権尊重の精神を培い、生活の中にある偏見や差別をなくしていく態度を育てる」を人権教育目標に掲げ、全ての教育活動を通じて人権教育を推進しています。

また、学校課題研究として『「考える力」を身に付けた子どもの育成」をテーマにし、自らの思いや考えを持つことを大切にした教育活動を進めています。さまざまな体験活動を通じて、学校・家庭・地域が一体となった人権教育に取り組んでいます。

十一月十日（土）に本校PTA主催の「くすの木まつり」が開催され、保護者と地域ボランティアの方々の協力で子供たちは、豊かな体験をすることができました。児童会の子供たちが中心となっ

て行った開会式では、ダンス・バトンクラブ、音楽クラブ、郷土芸能クラブが発表を行い、まつりの開催を盛り上げました。保護者の方々のついたお餅を食べたり、昔遊び体験やスライム作りを楽しんだりしました。上尾和太鼓サークル若駒さんの楽しい演奏会、上尾警察の方々によるパトカー・白バイ展示などさまざまな体験をすることができました。

保護者や地域の方々のたくさんのご協力で、子供たちは多くの交流をすることにより、親子のふれあいを深め、友達との仲間意識を高めることができました。この「くすの木まつり」が、地域への愛着へとつながっていくことを願います。



本校では、学校教育目標「志をもち、自ら学ぶ健康でたくましい生徒」の具現化を目指し、人権教育においても「1 人権意識を高める 2 人権に関する正しい理解を深める 3 様々な人権課題を解決しようとする態度を育てる」を目標に、全教育活動を通してその実現に取り組んでいます。

具体的実践として、人権感覚の高揚を道徳の授業での基盤としています。また、人権作文と人権標語に取り組みしました。何気なく過ごしている学校生活を振り返ることができるよう機会となり、多くの生徒が「人権とは何か」を考え、「一人一人が持っている人権を守るためにはどうすればよいか」という意識を高めました。

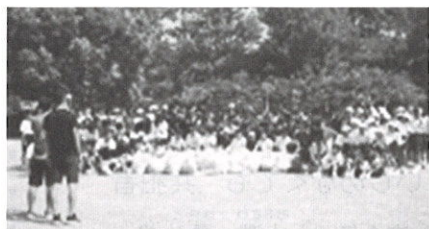
地域の方や家族とのふれあいの中で感じたことを作文にする生徒もあり、社会に対して自分には何ができるかを具体的に考えることもできました。

さらに、生徒どうしのふれあいを通して互いに認め合う心情を育てるため、「夏休み中

の除草」や「落ち葉はき」といったボランティア活動を行いました。「あいさつ運動」「各種委員会による生徒朝会」など生徒主体の活動に力を注いでいます。

こうした、生徒一人一人が活躍でき、それを認め合う取組が、互いの人権を尊重する態度を育むと考えています。

今後、全教育活動を通して人権意識を高める教育を推進していきたいと思っています。



全教育活動を通じた人権教育の推進

桶川市立川田谷小学校

本校では、人権教育目標として「人権意識の高揚を図り、人権についての正しい理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育成する」ことを掲げ、教育活動全体を通じて児童・教職員の人権意識を高める取組を行っています。

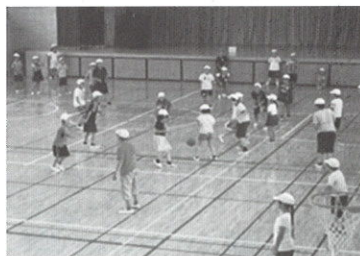
学校生活の中では、毎月一度「川小じんけんの日」を設定し、児童一人一人に学校生活アンケートを実施し、いじめの早期発見を目指しています。その他にも、人権メッセージや人権標語、人権作文への取組や縦割り班で行うなかよし給食となかよしデーを通して、豊かな人権感覚の育成を目指しています。

学校経営方針の一つである、「明るいあいさつが交わされ、お互いを尊重し合える学校」にしてい

よう取り組んでいます。具体的な取組の重点として、いじめ防止対策基本方針に則り、「いじめ」の早期発見・早期解消を図っています。児童の良さを見つけ、ほめ、励まし、伸ばす積極的な生徒指導や特別の教科、道徳等特別活動、すべての教育活動を通じて、差別やいじめを許さない心と態度を育てています。

また、学校課題研究において、体育科では「意欲的に運動に取り組む、心身を磨き合う児童の育成」を目指し、児童がお互いの立場や考えを認め合い、思いやりの心が育つように取り組んでいます。

このように、学校・家庭・地域が一体となつて、人権教育の推進に努め、児童一人一人の人権感覚の育成を図っています。



本校では、学校教育目標「学ぼう未来へ、育てよう心と体」を具現化するため、人権教育の目標「①一人ひとりの人権を尊重する能力、態度、実践力を養う。②相手の立場を考え、共に学び合える正しい理解と認識を育てる。」を設定して人権教育を推進しています。

本年度は、人権作文や標語作成を全校で取り組みました。そして、西日本豪雨災害や北海道胆振東部地震に対する募金活動を、生徒の発案から学校全体で実施しました。多額の募金が集まり、被災地に送ることができました。

その他にも、毎週金曜日に実施している登校時に地域のひとと挨拶を交わしながらゴミを拾うクリーン活動や、



校内外の落ち葉掃き、青少年赤十字（JRC）登録校の活動として駅頭募金活動を行うなど、多くの活動を委員会や部活動、有志の生徒の参加で取り組みました。

また、夏季研修において、教職員の人権教育研修会を実施しました。主に人権感覚の意識向上と、全校で実施する教育活動の意見交換を行いました。

これらの活動から、生徒に「周りに対する思いやり」や「気づく力」をつけていける学校を目指しています。人権教育の推進のために、毎年さまざまな取組をしていますが、今後も活動とともに、取組の振り返りや見直しを図り、より一層人権意識の向上に努めていきます。



思いやりと気づく力を育む活動

桶川市立桶川中学校



生徒一人一人が活躍し認め合う活動

桶川市立桶川西中学校



「人権感覚の育成」

桶川市立朝日小学校

本校では、「共に学び合い、共に生き、共に明日をつくる児童の育成」を学校教育目標と定め、人権を尊重する豊かな心を育成するため、次のような取組を行っています。

○心がかよう あいさつ運動
各学級が定期的に昇降口の前に立ち、あいさつ運動をしています。進んであいさつすることの大切さを学びます。笑顔いっぱい、気持ちの良い一日のスタートとなります。

○心がふれあう ふれあいタイム
一年生から六年生までの縦割りグループをつくり、昼休みにいっしょに遊ぶ活動をしています。

秋には、「日出谷フェスティバル」があり、協力して店の準備をしたり、他のグループの店をいっしょに回ったりしながら、他学年の児童と仲を深めています。上学的

本校では、人権教育目標を「人間尊重に徹し、人権尊重の高揚を図り、人権に対する正しい知識と理解を深め、様々な人権問題を解決しようとする児童を育てる」として、全教育活動を通じて人権教育に取り組んでいます。

「あいさつ運動」では、あいさつを通じてより豊かな人間関係が築けるように、「なかよしタイム」では一年生から六年生までの縦割り班での活動を通して思いやりの気持ちを育てるように、「人権標語」ではどうすればみんなが幸せな気持ちになれるかを考えられるように、という思いを込めた活動を行っています。

四年生の総合的な学習の時間には「今、わたしたちにできること」をテーマとした調べ学習や、車いす体験、認知症サポーター教室で

年下学年の児童との関わりで思いやりの心をもち、下学年は上学年の児童の優しさに感謝の気持ちを持ちます。

○心について考える 人権標語
人権標語の取組で、代表児童の作品を校内に掲示しています。友達の作品のすばらしさに触れ、人権について考えるきっかけとなるようにしています。

○心を育てる 人権の花
今年は、さいたま市人権擁護委員協議会の協力を得て、人権の花の栽培を行っています。

花を育てることを通して思いやりの心を育てています。

今後、これらの取組を通して、笑顔いっぱい、日出谷っ子を育てていきます。



ひかる瞳 てっかい夢 やりぬく力を育む日出谷小

桶川市立日出谷小学校

本校では、「共に学び合い、共に生き、共に明日をつくる児童の育成」を学校教育目標と定め、人権を尊重する豊かな心を育成するため、次のような取組を行っています。

○心がかよう あいさつ運動
各学級が定期的に昇降口の前に立ち、あいさつ運動をしています。進んであいさつすることの大切さを学びます。笑顔いっぱい、気持ちの良い一日のスタートとなります。

○心がふれあう ふれあいタイム
一年生から六年生までの縦割りグループをつくり、昼休みにいっしょに遊ぶ活動をしています。

秋には、「日出谷フェスティバル」があり、協力して店の準備をしたり、他のグループの店をいっしょに回ったりしながら、他学年の児童と仲を深めています。上学的



人権教育DVDの紹介

「わっかカフェへようこそ」
わっかの「わ」にはいろんな意味がある。
「調和の和」
「つながることも輪」
「めぐることも環」
「話をする話」
世の中にはいろんな人がいて、誤解がもたれ、うまくいかないこともある。そんなときはわっかカフェでお茶を飲んで、話をしよう。



「忍たま乱太郎の がんばる しかないさシリーズ」
道徳の学習でも活用できます
第一巻「よいことを行う」
・困っている人をたすけたり、行列でのマナーなどを学ぶ
第二巻「あたたかい心で」
・あたたかい心遣いや親切を学ぶ
第三巻「きまりを守って協力しあう」
・当番活動について協力して行うことからきまりを学ぶ



本校では、教育目標を「心身ともにたくましく生きる人間を育成する。」と定め、人権教育における目標を「自分の人権を守り、他者の人権を守るための実践行動がとれる生徒の育成」としています。

日々の授業や生活の中で人権の大切さを伝えるとともに、全校集会、学年集会、学校行事など、さまざまな機会を通じて人権教育を行っています。

性教育講演会では、生徒が命や性について考えられるようテーマを設定し、今年度は埼玉医科大学の先生をお招きしました。命の尊さ、性に関する正しい知識を身につけることが、自分自身やパートナーを守ることにつながるといってお話をさせて頂きました。生徒の反応も良く、身近な問題として捉え、真剣な表情で学ぶ様子が見られました。今年度は、生徒がインターネットによる人権侵害の加害者にも被害者にもならないための情報モラル教育や、携帯電話によるトラブルを回避できる

知識と態度を育てることに重点を置き、講演会等を計画しています。また、川田谷小学校での学習ボランティアでは多くの生徒が小学生との時間を楽しみ、相手を思いやる活動で自信をつけることができました。

今後もボランティアや科学部による水族館の一般公開など、地域と密に連携した活動をとおり、積極的に人権教育を推進してまいります。



他者への思いやりと自ら誇れる自分づくり

埼玉県立桶川西高等学校

※視聴をご希望の方は、生涯学習文化財課までお申し出ください。

人権作文

ぼくが見ている世界

小学校五年

ぼくが見ている世界は、みんなが見ている世界とちよつと違つみたいだ。

気付いたのは、幼稚園でサル絵をかいた時のことだった。家に持ち帰って、自まん気に見せると、母はおどろいた顔でぼくにこう言った。

「どつして緑でぬつたの？」

母がおどろいたのは無理ないかもしれない。ぼくは、サルの体を緑でぬつていたのだ。たしかにサルの色といえば、みんなは茶色と答えるかもしれない。でも、その時ぼくには、サルは緑色のような色に見えた。だから、その色を使って絵をかいただけなのだ。

ショックだった。そんなぼくに、母は少しだけ他の人と色の見え方が違つただけで、それは病気ではないんだよということとを教えてくれた。

でも、その後も、色の見え方で傷つくことはたくさんあった。

小学校に入って図工の授業で絵をかいているときのことだった。絵をぬり進めていくとむらさき色と青色の区別がつかずに困ってしまった。そこで、

「これ何色？」

と友達に聞いてみた。するとその子は、「青だよ。そんなのも分からないの。」とあきれ顔で言ってきた。たしかに他の

人にしてみれば不思議に思つのかも知らない。でも、ぼくにはそれが分からないのだ。ぼくがしつかり見えないから言われてしまうのだと思つた。とても悲しい気持ちになった。ぼくが悪者みたいに思えてきた。

どうしてぼくはみんなと同じように色を見ることができないのだろうか。それについていけないことなのだろうか。そう思い何度も落ちこんだ。それから、色のことについて友達と会話をするのをさけるようになっていった。

そんなちよつと暗い気持ちで迎えた四年生。いよいよ図工の時間がやってきた。「きつと今年も色のことでバカにされたり、いやな思いをしたりするんだろうな。」そんな思いでいっぱいだった。

でも、そんなぼくの気持ちを察してくれたかのように、先生はぼくに色のことを優しく教えてくれた。ぼくのことを分かってくれていたのだ。とてもうれしかった。その後も、先生はぼくのことを考えてくれて、授業中は黒板に書くチョークの色を見やすい色にしてくれた。ぼくが不自由なく学習できるように考えてくれた。

なんだか、心がほつとした。一人でも自分のことを分かってくれる人がいれば、それでいいと思えるようになった。それから友達から色について言われることがあったけれども、あまり気にせずに行われるようになった。そのうち、色のことで言ってくる人は、ぼくの周りにはあまりいない、むしろ、色のことなんか気にせずにはぼくと仲良くしてくれる友達が

たくさんいるということに気付いた。そういう友達はきつとぼくの見えている世界についても分かってくれるだろうし、そういう友達がこれからも増えていくと信じていきたいと思えるようになった。たった一人、先生がぼくのことを分かってくれただけで、ぼくの気持ちは楽になったし、他の人を見る目を変えることができた。

人は一人一人それぞれ違う。違つということは、やっぱりすぐには周りに理解してもらえない。だから、きつとぼくみたいに見える方が違つことをだれにも言えず悩んでいる人もいるだろう。もしかしたら、人とちよつとだけ違つということ、友達にいやなことを言われて辛い思いをしている人がいるかもしれない。そんなときは、もう一度じっくり周りをみてほしい。きつと、ぼくが出会った先生や、周りにいる友達のように、自分のことを分かってくれたり、違つていることを気にしないで、仲良くしてくれたりする人がいるから。

ぼくが見ている世界はみんなが見ている世界とちよつと違つと思うと、今でも心が苦しい。そんなのはやっぱりいやだ。でも、ぼくには、ぼくを分かってくれる人がたくさんいると信じている。だから、ぼくもみんなとはちよつと違つて見えても、仲間と見ているこの世界を好きになりたい。そしていつの日か、

「ぼくが見ている世界は、みんなと同じすばらしい世界です。」

そんなふうに心から言えるようになりたい。

みんなで築こう 人権の世紀

～考えよう 相手の気持ち 育てよう 思いやりの心～

様々な人権課題解決のために、私たち一人一人が人権感覚を磨き、自らの課題として受け止め、日々の実践に向けて努力していきましょう。

桶川市教育委員会生涯学習文化財課
〒363-8501 桶川市泉1丁目3番28号
TEL 048-788-4970 (直通)